

理事会報告

2023年度第5回(2024年第3回) 理事会議事録

日時：2024年4月12日(金) 15:00～16:50
場所：TKPガーデンシティPREMIUM横浜ランドマークタワー ルームC

現地出席者：宇野隆(理事長)、溝脇尚志(専務理事)、青山英史、有賀久哲、井垣浩、石川仁、内田伸恵、大野 達也、岡嶋馨、小川和彦、古平毅、櫻井英幸、佐々木良平、澁谷景子、高橋健夫、中村和正、村上祐司(以上理事)、塩山善之、生島仁史(以上監事)、寺嶋秀夫(顧問会計士)、角田怜子、鈴木弘美、山内蓉子(以上事務局)

[WEB出席]：大西洋(理事) (敬称略)

審議事項

1. 前回議事録承認 (溝脇専務理事)
前回(2024/3/15)理事会議事録案と、その後の進捗状況が確認され、承認がなされた。
2. 会員の入会他 (溝脇専務理事)
 - 1) 入会申請(2024年3月8日～4月1日)：計18名[内訳_正会員15名、准会員3名]であることが報告され、承認された。
 - 2) 2024年4月1日現在の会員登録状況について下記のとおり説明がなされた。
 - 会員総数：4,359名[内訳_正会員2,301名、准会員1,957名、名誉会員56名、賛助会員39社、国際賛助会員6名]
 - 尚、前回3/15の理事会にて指摘があった国際賛助会員の名称変更については、外国籍で日本の医師免許等を持たない方の会員区分として2018年より「賛助会員(個人;国際賛助会員)」を設定した経緯が説明され、現状6名の方のみの登録のため、当面はこの規程で運用する旨確認された。
 - 退会者：10名[正会員1名、准会員9名]
 - 正会員内訳：医師2,086名 歯科医師46名 医師以外169名(医師比率90.66%)
 - 男女比率：正会員[男性1,843名、女性458名]、准会員[男性1,494名、女性463名]
 - 専門医数：1,440名[男性：1,166名、女性：274名]
 - 会費納入率：正会員89.44% 准会員81.81%
3. 理事数増員に関する定款細則14条、17条等の変更案等について (大野理事)
 - 前回(3/15)理事会にて承認された「現定款記

載の範囲内における理事数増員：最大20名以内」に関する「定款細則」変更について、規約委員会より変更案が示され、承認がなされた。

- 前回理事会にて指摘があった「立候補者が定数に満たない10名以下の場合の細則記載がないこと」について、公益法人で明記している例は少なく、立候補者枠増員の状況にあつて発生する可能性が低いこと、仮に発生した場合は定款に基づき「現理事会が推薦した候補者を総会の議を経て決定」の対応が可能のため、記載は不要である旨規約委員会で審議した内容が説明され、確認がなされた。
 - 細則17条8項「理事のうち立候補した代議員からの選出に依らない理事3名については、現理事会が専攻分野ならびに地域、性別等の不均一性を調整して推薦した候補者を総会の議を経て理事として決定する」について、前回理事会にて「現理事会ではなく新理事会で決定するべきではないか」という意見が出されたが、「新理事会が推薦」に変更をした場合、「定時総会で新理事承認→新理事会開催→推薦者決定→再度臨時総会開催」の煩雑な手続きが必要となること、「現理事会にて推薦→役員選挙公示→総会承認」手続きは現定款に於いて正しい手順である旨が監事より述べられ、現理事会が推薦する現行案が承認された。なお推薦理事の選出方法については、引き続き検討していく旨確認された。
4. 2024年名誉会員の推薦について (有賀理事)
賞等推薦委員会より推薦基準内規に基づいた審査結果・推薦書が報告され、以下の7名の会員を2024年名誉会員候補者として社員総会に推挙する旨承認された。
高井良尋 会員/加賀美芳和 会員/
猪俣泰典 会員/鎌田正 会員/関根広 会員/
上紺屋憲彦 会員/国枝悦夫 会員
 5. 2024年プレスカンファレンスの内容について (岡嶋理事)
2024年9月実施予定のプレスカンファレンスについて、「肺がんへの放射線治療の進化」をテーマとすることが承認された。内容としては理事長挨拶、第37回学術大会のハイライト、肺がんに対する体幹部定位照射・強度変調放射線治療・粒子線治療とし、詳細の講演内容・演者については広報委員会を中心に検討を進めていくことが確認された。
 6. 日本専門医機構放射線科サブスペシャルティ領域放射線治療専門医検討委員会規約改訂委員の推薦について/日本専門医機構認定放射線治療専門医資格更新基準2024年第1版について (古平理事)
 - 日本専門医機構放射線科サブスペシャルティ領域放射線治療専門医検討委員会規約の改訂案が示され承認された。規約に基づき以下「放射線治療専門医検討委員会委員」が承認された。
 - ①基本領域学会JRS(放射線治療専門医制度委員会より)：古平毅 特任理事(委員長)/

長縄慎二 理事(副委員長)/
前林勝也 特任理事(副委員長)/
小岩井慶一郎 代議員(委員)

②放射線治療専門領域JASTRO：宇野隆 理事長/
溝脇尚志 専務理事/大野達也 理事/
青木昌彦 代議員/勝井邦彰 代議員/
石原俊一 代議員

- 「日本専門医機構(機構)認定サブスペシャルティ領域[専門医の認定・更新]に関する整備指針(2022年4月15日一部改訂)」に基づき、更新に関する基準を定めた『日本専門医機構認定放射線治療専門医 資格更新基準2024年第1版』が示され承認された。

報告事項

1. 理事長・専務理事職務状況報告

(宇野理事長/溝脇専務理事)

現在までの業務状況・活動報告がなされた。

2. 第2四半期 会計報告

(溝脇専務理事/寺嶋秀夫会計士)

第2四半期(2023/9月~2024/2月)会計について、予算比は、収入：会費93%達成、支出は学術大会収支が含まれていないことから事業費8%、管理費42%といった状況であることが報告された。昨年同時期と比べると、RI内用療法のデータベース構築のための企業からの寄付金を除いて、ほぼ同じペースであるが、今年も学術大会収支が黒字と予測されるため、予算の確実な執行と今後の状況次第では特別予算の検討が望まれる旨が説明された。

3. Nature 誌への学会記事掲載について

(宇野理事長)

2023/10/27理事会にて承認の雑誌Nature“放射線領域特集号”有償の記事広告掲載について、2024年3月21日付けにて発刊・掲載がなされた旨が報告され、掲載雑誌が回覧された。特集全体の別刷りを200部発注したこと、粒子線治療委員会や国際委員会等で活用する旨が報告された。

4. ASTRO-JASTRO joint symposium 採択/ ESTRO2024National Societies Survey について

(青山理事)

- MOUに基づく“ASTRO-JASTRO joint symposium”について、2024年はASTRO側(9/29-10/2ワシントン開催)での初開催で、肝臓癌の演題で採択された旨が報告された。2025年はJASTRO側(第38回JASTRO学術大会：櫻井大会長)にてシンポジウム開催予定である旨確認された。
- ESTROより“2024National Societies Survey”の依頼があった旨報告され、国際委員会を中心として回答案を作成すること、項目によっては各理事・事務局へ協力を依頼する旨が確認された。

5. JRR 誌 APC 値上げについて (佐々木理事)

前回理事会で継続審議となったJRR誌APCの値上げについて、関連学会のAPC価格の一覧

が示され、JRR誌の会員価格は他の学会誌と比較して低い設定であること、日本放射線影響学会(JRRS)編集委員会委員長と副理事長を通じて、「当会とJRRSで本年度の値上げをもって2年の据え置き(今年度と来年度)を要望する案」について話し合いが行われ、JRRS理事会の最終確認後、正式にOUP社へ申し入れる方向であることが報告された。

6. 放射線治療計画業務補助者の教育/研修体制等の構築(厚労科研大西班)における各団体からの回答について (大野理事)

前々回理事会(2024/1/19)にて審議した「厚労科研大西班からの放射線治療計画業務補助者の教育/研修体制等の構築における今後の方針に関する質問」に対して、当会を含む計8団体からの回答が報告された。放射線治療計画業務補助者の教育/研修体制等の構築の議論について放射線関連6団体から構成される放射線治療品質管理機構が取りまとめ役になって議論を進めることについては、すべての団体から賛同するという回答であったこと、今後の方針案については概ね賛同であったが、当会の回答と同様、いくつかの団体からは各団体の理事会でも審議したい旨回答があった旨が説明された。

7. 強度変調放射線治療(IMRT)臨床的ガイドライン2024 査読結果 (井垣理事)

ガイドライン委員会による「強度変調放射線治療(IMRT)臨床的ガイドライン2024」査読結果が示され報告された。ガイドライン委員会から指摘があった部分を精査し、執筆者のCOIを記載した最終版を、6月の診療報酬改定に間に合わせるようメール審議等が必要な旨確認された。

8. 放射線治療PR事業：第1回市民公開講座/粒子線がわかる本の販売状況について(岡嶋理事)

- 放射線治療PR事業の一つである『市民公開講座開催』について2024年7月13日現地開催+オンライン(後日オンデマンド配信予定)で準備を進めている旨報告された。なお詳細の内容については広報委員会で検討を進めている旨報告された。
- 2023年9月15日発刊の「粒子線治療がわかりわかる本」について、2024年3月までの実売は約1000部、直販その他で1750部の印税収入が学会にあったこと等が報告された。

9. 第5回放射性同位元素内用療法セミナー会計報告 (石川理事)

第5回放射線同位元素内用療法セミナーについて、西井龍一世話人(名古屋大)の下、開催され、実施報告[2024年3月9日/名古屋大学医学部保健学科 東館4階大講義室/参加者75名(会員28名、非会員47名)]及び会計報告[学会への返金あり]がなされた。良いセミナーであるため、次回は告知を早めに行う旨確認された。

10. 2025年海外名誉会員推薦/2024年 GOLD MEDAL 推薦について (有賀理事)

- 歴代の海外名誉会員リストが示され、2025年の学術大会長の櫻井先生を中心に2025年海外名誉会員候補者を検討し、賞等推薦委員会へ連絡する旨確認された。
- GOLD MEDALの歴代受賞者および推薦基準の内規が示され、該当する候補者がいる場合、賞等推薦委員会へ連絡する旨周知された。

11. 放射線治療コード WG について

(大西理事/中村理事)

現在、コード体系の構築から試案コードの作成を行っている放射線治療コードWGについて、試案コードの作成の作業量が増大しているため新規WGメンバーの追加が報告された。

寺原敦朗 会員/篠田充功 会員/水本斉志 会員